

2 学期制移行後の共通体育柔道における大学生の武道に対するイメージ

桐生習作*・鍋山隆弘**・山口 香**・福見友子***

The Image toward Budo which the students attending Judo class on the common Physical Education course after the Translation from the Trimester System to the Semester System

KIRYU Shusaku*, NABEYAMA Takahiro**, YAMAGUCHI Kaori**
and FUKUMI Tomoko***

1. はじめに

本研究の目的は、日本の大学における教養科目としての体育（以下、共通体育）の中、T 大学共通体育柔道の受講生の武道に対するイメージを把握し、今後のカリキュラム改善に有効な資料を提示することにある。

共通体育のおこりは 1949（昭和 24）年、GHQ（連合国軍総司令部）の占領政策の下で行われた学制改革にさかのぼる。このとき制定された大学設置基準第 22 条により、大学では体育が 4 単位必修となった。1991（平成 3）年には大学設置基準の大綱化が行われ、各大学がその理念に基づきカリキュラムを編成することが可能となった。これ以降、多くの大学において共通体育の単位数減少や自由科目化、廃止など、共通体育の縮小が行われた。しかしながら、もともと必修であった共通体育の枠は依然として大きく、その拡充は今後のわが国の体育・スポーツの振興にとって重要であるといえよう。

こうした中、T 大学では共通体育専門のセンターと多数の専任教員を有し、教育と研究に長年取り組んできた。近年でも武道種目の拡充^{注1)}や、受講生の武道に対するイメージの研究にも力を注いでいる¹⁻⁴⁾。2011（平成 23）年には、石川ら²⁾が T 大学共通体育柔道受講生 368 名（2007 年度～2009 年度）を対象としたイメージ調査を行い、因子分析によって受講生の武道に対するイメージ構造を明らかに

した。

2013 年 4 月、T 大学は 3 学期制から 2 学期制への改革を行った。これに伴い 1 単位の計算方法が変更となり、実験・実習・実技等は 30～45 時間（極力 45 時間をなくす）を 1 単位とする方針が採用された^{注2)}。2 学期制移行以前の体育実技は 30 回の授業をもって 1 単位と計算していたのに対し、移行後は 20 回の授業を 1 単位、10 回の授業を 0.5 単位と計算するようになった。授業回数減少の影響を調査することは、共通体育のカリキュラム改善を検討する上で有効な資料になると考えられる。しかしながら、学期制変更前後の武道のイメージに関する研究は管見する限り見あたらず、こうした点にも本研究の意義が認められる。

2. 方 法

受講生の武道のイメージ構造を把握するため、石川らが作成したアンケートを用いた（図 1 参照）。

質問項目は T 大学共通体育柔道（1997～1999 年度）の授業終了時に実施した受講生の感想文から柔道の印象変化に関する記述を抜粋し、KJ 法にて 30 項目にまとめたものである。尺度は -3 から +3 までの 7 段階になっており、質問項目に対して「全然感じない」ときは -3、「どちらともいえない」ときは 0 を○で囲む形式になっている。

調査期間と対象は以下の通り。

* 公益財団法人講道館
Kodokan Judo Institute

** 筑波大学体育系
Faculty of Health and Sport Sciences, University of Tsukuba

*** 東日本旅客鉄道株式会社
East Japan Railway Company

ン 19、因子抽出法として最尤法、回転はプロマックス回転を用いた。

3. 結果

全 30 項目に対して主因子法による因子分析を行った。分析の結果、4 因子構造が妥当であると考え、再度 4 因子を仮定して主因子法・プロマックス回転による因子分析を行った（表 1 参照）。

その結果、因子負荷量が 0.3 に満たなかった 3 項目を除外し、再度主因子法・プロマックス回転による因子分析を行った。なお、4 因子 27 項目の全分散を説明する割合は、49.30%であった。

次に因子のスクリープロットをみると、第 4 因子と第 5 因子との間から差が見られなかったため、4 因子構造と判断した（図 2 参照）。

最後にパターン行列の結果、因子負荷量が 0.3 以

表 1 固有値

因子	初期の固有値			抽出後の負荷量平方和			回転後の負荷量平方和 ^a
	合計	分散の%	累積%	合計	分散の%	累積%	
1	5.510	20.407	20.407	4.978	18.438	18.438	4.217
2	3.919	14.513	34.920	3.258	12.068	30.507	4.099
3	3.595	13.316	48.236	3.252	12.046	42.552	3.252
4	2.234	8.273	56.509	1.822	6.750	49.302	2.941
5	1.437	5.323	61.832				
6	1.216	4.503	66.334				
7	1.093	4.047	70.381				
8	.980	3.631	74.012				
9	.877	3.246	77.258				
10	.777	2.878	80.137				
11	.739	2.736	82.873				
12	.643	2.382	85.255				
13	.606	2.246	87.501				
14	.499	1.850	89.351				
15	.467	1.728	91.079				
16	.436	1.615	92.694				
17	.340	1.260	93.954				
18	.309	1.146	95.100				
19	.259	.958	96.059				
20	.221	.819	96.878				
21	.201	.746	97.624				
22	.159	.590	98.214				
23	.143	.528	98.742				
24	.122	.451	99.193				
25	.087	.320	99.514				
26	.071	.261	99.775				
27	.061	.225	100.000				

因子抽出法：最尤法

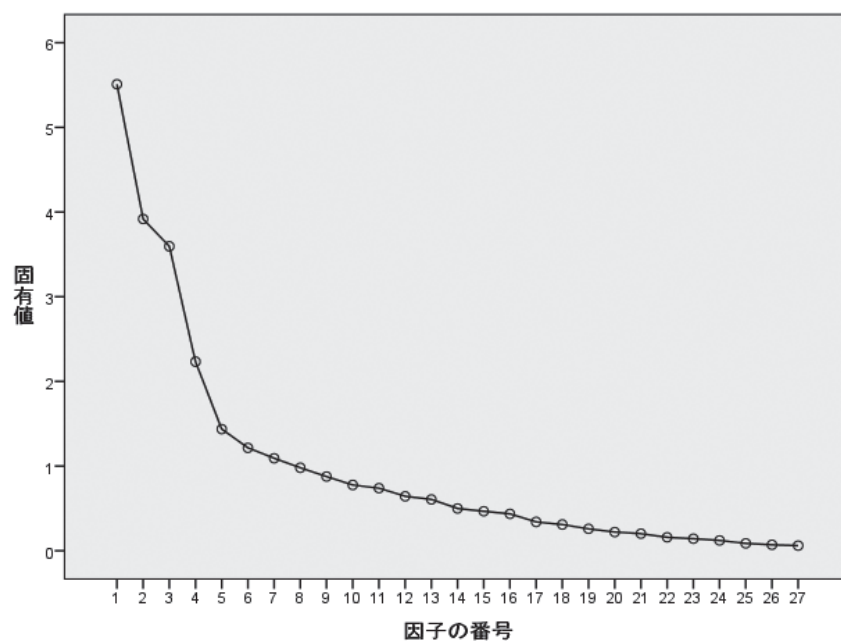


図 2 因子のスクリープロット

表2 パターン行列

観測変数	因子			
	1	2	3	4
活動的	.850			
豪快さ	.767			
激しさ	.656		.364	
硬派	.614			
かっこよさ	.585			
厳しさ	.525			
危険	.510			
奥深さ		.731		
礼節		.665		
精神性		.614		
伝統的		.613		
苦痛	-.514	.583		
いさぎよさ		.580		
すがすがしさ		.579		
美しさ		.438		
清潔さ		.417		
力強さ		.334		
楽しさ			.807	
親しみやすさ			.793	
おもしろさ			.684	
明るさ	.361		.564	
おだやかさ			.538	
難しさ			.397	
静かさ				.818
神秘的				.783
古さ				.682
日本的				.389

上を基準とした。「苦痛」、「激しさ」、「明るさ」の3項目において他の因子への影響がみられたが、因子負荷量が高い方を優先して解釈した。

第1因子は「活動的」、「豪快さ」、「激しさ」、「硬派」、「かっこよさ」、「厳しさ」、「危険」の7項目が関連していたため、「修行・鍛錬」因子と命名した。第2因子は「奥深さ」、「礼節」、「精神性」、「伝統的」、「苦痛」、「いさぎよさ」、「すがすがしさ」、「美しさ」、「清潔さ」、「力強さ」の10項目が関連していたため、「伝統・爽快」因子と命名した。第3因子は「楽しさ」、「親しみやすさ」、「おもしろさ」、「明るさ」、「おだやかさ」、「難しさ」の6項目が関連していたため、「娯楽」因子と命名した。第4因子は「静かさ」、「神秘的」、「古さ」、「日本的」の4項目と関連していたため、「平静・神秘」因子と命名した。

4. まとめ

本研究ではT大学共通体育柔道受講生を対象にアンケートを実施し、最も有効回答数の多かった初回授業時の回答結果に対して因子分析を行い、イメージ構造を検討した。

因子分析の結果、「激しさ」や「危険」などの「修行・鍛錬」因子、「奥深さ」や「伝統的」などの

「伝統・爽快」因子、「親しみやすさ」や「楽しさ」などの「娯楽」因子、「日本的」や「静かさ」などの「平静・神秘」因子の4因子が抽出された。

今後は調査対象の拡大を図り、以下の課題について検討していく予定である。

課題1 柔道、剣道、弓道、空手の受講生における武道に対するイメージの異同

課題2 授業回数が武道に対するイメージの変化に及ぼす影響

謝 辞

本研究は平成26年度体育系研究プロジェクトの助成を受けて実施したものであり、ここに深く感謝申し上げます。

注 記

注1) 従来の柔道、剣道、弓道、空手の4種目に加え、2013（平成25）年より集中実技として合気道を新設した。

注2) 筑波大学教育企画室学期制検討WG（2012）：筑波大学における授業運営体制の改革に対応する運用ガイドラインの概要—2学期制への移行に伴う教育課程の編成に向けて—。 https://www.tsukuba.ac.jp/up_pdf/20120607165851001.pdf

筑波大学 HP 学群教育履修要覧 <https://www.tsukuba.ac.jp/education/ug-courses/directory.html> 参照。

文 献

- 1) 掘出知里, 鍋山隆弘, 坂本道人, 成瀬和弥, 小俣幸嗣 (2008)：共通体育武道系プロジェクト研究報告 (2). 大学体育研究 30：93-96.
- 2) 石川美久, 遠藤知里, 小田梓, 坂本道人, 鍋山隆弘, 小俣幸嗣 (2011)：共通体育柔道における大学生の武道に対するイメージの変化. 大学体育研究 33：11-20.
- 3) 木原資裕, 今井三郎 (1978)：正課体育「剣道」受講学生における剣道に対するイメージについて. 大学体育研究 5：43-50.
- 4) 小俣幸嗣, 中村良三, 藤堂良明, 佐藤伸一郎, 高橋幸治, 青柳領 (1993)：正課体育柔道受講生の柔道に対するイメージの研究. 大学体育研究 15：11-22.